2026年度 第7回（12月）北辰テスト対策 予想問題　解答・解説

国語

1　問1（4点）

ア

瑞希は励ますつもりで「ドンマイ。次、次。」と言ったが、その言葉が「自分でも驚くほど」軽く空っぽに聞こえた。千夏を思う気持ちがこもっていないと自分で気づいて、とまどっている。

・ア 言葉が上すべりしていると気づいてとまどっている→正答
・イ あきれて突き放そうとする様子は本文にない（千夏を励まそうとしている）
・ウ 疲れ果てて気力がないとは書かれていない（実際に声をかけている）
・エ 後輩を気にしてごまかそうとする様子は本文にない

採点ポイント:「自分でも驚くほど」から、瑞希自身が言葉の空虚さに気づいていることを読み取れているか。

1　問2（4点）

ア

笑顔が「口もとだけ」で作られたとは、心から笑っているのではなく、うわべだけの笑顔だということ。直前に千夏は「わたしがいると、足を引っぱるだけだから」と言い、直後にも「足もとの床ばかり見ている」とあるので、内心は自分への失望や申し訳なさでいっぱいである。

・ア 心配をかけまいと笑いつつ、内心は失望・申し訳なさ→正答
・イ うれしがっている様子は本文にない（「足もとの床ばかり見ている」）
・ウ 瑞希は「何言ってるの」と案を受け入れていない
・エ 気持ちを切りかえた様子は本文にない

採点ポイント:「口もとだけ」という表現と、千夏のことば・様子を結びつけて読めているか。

1　問3（6点）

(例) 千夏が球を拾ってくれるので、自分は思いきり打つことができる（29字）

正答例:

・(例1) 千夏が球を拾ってくれるので、自分は思いきり打つことができる（29字）
・(例2) 千夏がいつも球を拾ってくれるから、自分は思いきり打ちこめると考えている（35字）

根拠: 第2段落に「強く打ちこむ瑞希の球を、いつもぎりぎりで拾って返してくれたのは千夏だった」とあり、第3段落で瑞希は「わたしが思いきり打つから、千夏は、いつもみたいに拾って」と頼んでいる。千夏が後ろで拾ってくれるから、瑞希は思いきり打てる、という関係がペアを組みたい理由である。

採点基準:

要素	配点内訳	判定基準
①「思いきり」が使えている	1点	指定語必須
②「拾う」（形を変えてよい）が使えている	1点	指定語必須
③ 千夏が球を拾ってくれる（受け止めてくれる）という内容が示されている	2点	「千夏が拾ってくれる」等
④ だから自分は思いきり打てる、という内容が示されている	1点	「安心して思いきり打てる」等
⑤ 25〜35字の字数を守っている	1点	逸脱は減点

指定語の使用順序は問わない。

1　問4（4点）

ア

瑞希は「ほんとはね、昨日、何も言えなくて、こわかった」と弱い気持ちを打ち明けたあと、グリップを握りなおして「だからお願い」と本心を続けている。握りなおす動作は、気持ちを奮い立たせて、思いを伝えきろうとする様子を表している。

・ア 気恥ずかしさをこらえ、本心を伝えようと奮い立たせている→正答
・イ 腹を立てている様子は本文にない
・ウ このあと始まるのは試合ではなくラリー。調子を確かめる場面でもない
・エ 美咲に傾いていたとは書かれていない（「美咲とは組まない」と言っている）

採点ポイント: 直前の弱音の打ち明けと、直後の「だからお願い」を動作でつなげて読めているか。

1　問5（5点）

ア

冒頭では、千夏のラケットがシャトルの下をくぐり、シャトルは床を打っていた。結びでは、シャトルが「一度も床に落ちなかった」と書かれ、二人のラリーがなめらかに続いている。この対比によって、二人の息が合い、心が通い合ったことが印象づけられる。

・ア 冒頭との対比で、二人の心が通い合ったことを印象づけている→正答
・イ 勝利が約束されているとは書かれていない
・ウ 瑞希の技術を強調する描写ではない
・エ 冒頭と同じ表現のくり返しではなく、対比になっている。関係も変化している

採点ポイント: 冒頭の「シャトルが床を打つ」場面と、結びの「一度も床に落ちなかった」を対比して読めているか。

1　問6（5点）

エ・オ

・ア: 短い会話を重ねて、ぎこちなく気まずい空気を伝えている→適切
・イ: 「口もとだけ」の笑顔と「目もとまで」の笑顔を対比させ、千夏の気持ちの変化を示している→適切
・ウ: 瑞希の視点で語られ、千夏の気持ちは「笑った」「目を見開き」などの表情やことばで描かれている→適切
・エ: 小学生のころの話は一文で触れられるだけで、思い出が長く挿入されてはいない。時間も前後せず、練習試合の日から翌朝へ順に進んでいる→不適切→正答
・オ: 結末は、千夏と瑞希の二人だけのラリーの場面で、美咲は登場しない→不適切→正答

採点ポイント: エ・オの2つを両方選んで正答（5点）。過不足があれば0点（部分点なし）。

2　問1(1)（2点）

ともな

「伴う」は「ともなう」と読む。意味は、ある物事といっしょに生じること、あとにつづくこと。

採点ポイント: 送りがな「う」は——部に含まれないので、「ともな」と書く。「ばん」「はん」などの音読みは不正解。

2　問1(2)（2点）

ふくへい

伏兵＝敵の不意をつくために、ひそかにかくしておく兵。思いがけない相手や邪魔のたとえにも使う。

採点ポイント: 「ふくひょう」「ふくへ」などの誤りに注意。「兵」は「へい」と読む。

2　問1(3)（2点）

余裕

余裕＝ゆとりがあること。

採点ポイント: 「余」は「予」と、「裕」は「浴」などと書き誤らないこと。

2　問1(4)（2点）

健闘

健闘＝力いっぱい、よくがんばること。

採点ポイント: 同音の「検討」「見当」と書き誤らないこと。意味から「健闘」を選べているか。

2　問2（3点）

イ・エ・カ

用言とは、動詞・形容詞・形容動詞のこと。活用する自立語で、言い切りの形が「ウ段」(動詞)、「い」(形容詞)、「だ」(形容動詞) で終わる。

・ア 大きな＝連体詞。活用しないので用言ではない
・イ 豊かだ＝形容動詞 ✓
・ウ ゆっくり＝副詞。活用しない
・エ 読む＝動詞 ✓
・オ 山＝名詞。活用しない
・カ 暖かい＝形容詞 ✓

採点ポイント: イ・エ・カの3つを全部選んで正答（3点)。過不足があれば0点。

2　問3（3点）

イ

形容動詞は、言い切りの形が「〜だ」で終わる（「きれいだ」)。形容詞は「〜い」で終わる。

・ア 大きな＝連体詞。「大きだ」とは言えず、活用しない
・イ きれいな＝「きれいだ」と言い切れる形容動詞→正答
・ウ おそろしい＝言い切りが「い」で終わる形容詞
・エ とても＝副詞。活用しない

採点ポイント: 言い切りの形にして、「〜だ」で終わるかどうかで見分けられているか。

2　問4（3点）

イ

俳句で「天の河（天の川)」は秋の季語。旧暦の七夕が秋にあたるため、夏のものと思いがちだが、季節は秋である。

・ア 「荒海」は季語ではない（海に季節を表す決まりはない)
・イ 天の河―秋→正答
・ウ 天の河を夏とするのは誤り
・エ 「佐渡」は地名で季語ではない

採点ポイント: 現代の感覚で夏と答えず、俳句での季節の決まりを知っているか。

2　問5（3点）

ア

もとの文は、主語「夢は」に対して、述語が「立ちたい」となっていて、対応していない（主述のねじれ）。主語が「夢は」なら、述語は「〜こと（です・だ）」の形にする。

・ア 「夢は……役に立つことです」と、主語と述語が対応している→正答
・イ 主語「夢は」に対し、述語が「思います」で、対応していない
・ウ 「夢が……立ちたいです」で、対応していない
・エ 「夢は……いう」で、対応していない

採点ポイント: 主語「夢は」と述語だけを取り出して、つながるかどうかを確かめられているか。

2　問6（3点）

エ

「れる・られる」には、受け身・可能・自発・尊敬の4つの意味がある。「校長先生が……述べられる」は、校長先生を敬う気持ちを表す尊敬。

・ア 雨に降られた＝受け身
・イ 思い出される＝自発（自然とそうなる）
・ウ 起きられる＝可能（「起きることができる」）
・エ 先生が入ってこられる＝尊敬→正答

採点ポイント: 「〜ことができる」「〜される（敬う）」などに言いかえて、意味を判断できているか。

2　問7（3点）

イ

国語辞典では五十音順に並べ、読みが同じ音のときは、清音→濁音→半濁音の順になる。

「はん」（エ）→「ばん」（ウ）→「ぱん」（イ）→「ひん」（ア）。「は行」の中で「はん」「ばん」「ぱん」が先に並び、そのあとに「ひん」が来る。

3番目は「ぱん」→イ。

採点ポイント: 清音・濁音・半濁音の順を知っていて、「ひん」を最後に置けているか。

2　問8（2点）

イ

司会は、小川さんが出した「朝は集まれない人がいる」という意見を受けとめ、その課題を補う案を出そうとしている。空欄のあとの「では、朝に集まれない人は……」へ自然につながるのは、課題を整理して次の方法を考えようとするイ。

・イ 出された課題を受けて、補う方法を考えようとしている→正答
・ア 小川さんは「いい案ですが」と述べており、反対ではない
・ウ 案を取りやめる発言は、あとの発言とつながらない
・エ 小川さんの意見は案と関係がある

採点ポイント: 空欄の前後の流れから、司会の役割（意見をつなぐ）を読み取れているか。

3　問1（4点）

ア

第1段落で、同じ「大丈夫」が、場面によって「断り」にも「安心」にもなると示されている。第2段落の①は、それをまとめた一文。

・ア 場面が変われば、同じ言葉でも意味が変わる→正答
・イ 「役に立たない」とは述べていない（辞書の意味も示されている）
・ウ 「いつも断り」とは述べていない
・エ 「表情のほうが正確」とは述べていない（言葉の外の手がかりの一つとして挙げている）

採点ポイント: 第1段落の具体例と、①の一般的な言い方を結びつけて読めているか。

3　問2（4点）

ア

②の直前に「話し手の表情や声の調子、直前のやりとりなど」とあり、これが「言葉の外にある手がかり」にあたる。

・ア 表情・声の調子・直前のやりとり→正答
・イ 辞書の意味は、言葉の中にあるもの。「辞書に載っている意味だけで会話をしているわけではない」とある
・ウ 年齢や地域は、本文で挙げられていない
・エ 聞き手が読んだ本の内容は、本文で挙げられていない

採点ポイント: ②の直前の列挙を抜き出して、「外」の意味を確かめられているか。

3　問3（6点）

(例) 手がかりが足りないまま、自分の思いこみで相手の意図を決めてしまう（32字）

正答例:

・(例1) 手がかりが足りないまま、自分の思いこみで相手の意図を決めてしまう（32字）
・(例2) 手がかりが足りないのに、思いこみで相手の意図を決めてしまう（29字）

根拠: 第3段落で、断りとも遠慮とも読める場面が示されている。第2段落のとおり、相手の意図は手がかりを組み合わせて読み取るものなので、手がかりが足りないまま判断すると、思いこみによる読み違いが起こる。

採点基準:

要素	配点内訳	判定基準
①「手がかり」が使えている	1点	指定語必須
②「思いこみ」が使えている	1点	指定語必須
③ 手がかりが足りない（少ない）という内容が示されている	1点	「手がかりが足りないまま」等
④ 思いこみで相手の意図を決めてしまうという内容が示されている	2点	「思いこみで……決めてしまう」等
⑤ 25〜35字の字数を守っている	1点	逸脱は減点

指定語の使用順序は問わない。

3　問4（4点）

ア

④は、話し手の工夫である。直後に「今日は荷物が軽いから大丈夫」と、理由を足す例が挙げられている。

・ア 話し手として、言葉（理由）を足している→正答
・イ 言葉を足していない
・ウ 「たずねて確かめる」は、聞き手の工夫（次の文で述べられている）
・エ 思いこみで受け取る行動で、本文の考えと反する

採点ポイント:「話し手の工夫」と「聞き手の工夫」を区別できているか。

3　問5（5点）

ウ

「適切でないもの」を選ぶ問題。

・ア: 冒頭で「大丈夫です。」と身近な例を出し、読者を引き入れている→適切
・イ:「たとえば」で、「手伝おうか」「大丈夫」のやりとりを具体的に示している→適切
・ウ: 本文にアンケートの数字は出てこない→不適切→正答
・エ: 最後の段落で、「入れ物」のたとえを使って、ふつうの考えと筆者の考えを「しかし」でつないで対比している→適切

採点ポイント:「本文にあること」と「本文にないこと」を区別できているか。

3　問6（5点）

ア

筆者は、言葉の意味が場面で決まること、手がかりから読み取る際にすれちがいが起こりうること、それを防ぐ工夫が話し手・聞き手の双方にできることを述べ、最終段落で「いっしょに意味をつくりあげていくもの」とまとめている。

・ア 手がかりを出し合い確かめ合ってつくる、双方の工夫が大切→正答
・イ 「会話を避ける」とは述べていない
・ウ 辞書の意味だけでは会話はできない、というのが本文の立場
・エ 「責任は聞き手だけ」とは述べていない（話し手の工夫も挙げている）

採点ポイント: 具体例と、最終段落の主張の両方を含む選択肢を選べているか。

4　問1（4点）

ア

「嘆く」は、古文でも、悲しんでため息をつく、という意味。「いたく」は「ひどく」（注）なので、主は花が散ったことをひどく悲しんでいる。このあと、翁が「物も食はず嘆くは」と言っていることからも、落ちこんでいるとわかる。

・ア 悲しみ、ため息をついて落ちこんでいる→正答
・イ 怒っているとは書かれていない（「嘆く」は怒る意味ではない）
・ウ 手入れの方法を考えているとは書かれていない
・エ 大声で呼びかける様子は書かれていない

採点ポイント: 古語「嘆く」の意味（悲しんでため息をつく）を、前後の様子とあわせて判断できているか。

4　問2（4点）

わらいていうよう

語中・語尾のハ行は、現代仮名遣いではワ行に直す。また、「やう」は「よう」に直す。

・「笑ひ」の「ひ」→「い」で「わらい」

・「言ふ」の「ふ」→「う」で「いう」

・「やう」→「よう」

→ 「わらいていうよう」

採点ポイント: すべてひらがなで「わらいていうよう」と書けて正答。「わらひて」「いふやう」「いうやう」（直し忘れ）は不正解。

4　問3（4点）

ア

古語「あやし」には、「不思議だ・おかしい」「身分が低い・いやしい」などの意味がある。ここでは翁が、「散るのを嘆いて物も食べないのは」と、主の様子を、筋が通らず変だと言っているので、「不思議でおかしい」の意味。

・ア 不思議でおかしい→正答

・イ 「身分が低い」は「あやし」の別の意味で、ここでは人の身分の話ではない

・ウ 「美しい」は「あやし」にない意味

・エ 「いとしい」は「あやし」にない意味

採点ポイント: 古語「あやし」の複数の意味から、文脈に合うものを選べているか。

4　問4（4点）

(例) その先にあるよい結果を楽しみに待つ（17字）

正答例:

・(例1) その先にあるよい結果を楽しみに待つ（17字）

・(例2) その先に実るものを楽しみに待つ（15字）

根拠: 花が散ったことを嘆いた主に、翁は「花は散りてこそ実を結ぶものを」と言った。主は枝に青い実を見つけ、夏の末には大きくなった実を人々に分けて喜んでいる。④は「終わりを嘆くより、その先を待つことこそ、本当の心である」という意味。

採点基準:

要素	配点内訳	判定基準
① その先（このあとに来るもの）に目を向けるという内容	1点	「その先」等
② 実り・よい結果という内容	1点	「実る」「よい結果」等
③ 待つ（楽しみにする）という内容	1点	「待つ」等
④ 10〜20字の字数を守っている	1点	逸脱は減点